



相手に生きる

学校教育目標 「相手に生きることによって自己を生かす」
西中スタンダード 「あいさつ」「歌」「清掃」「花」「服装」「時間」

前期人権教育旬間

5月7日(火)～17日(金)は「前期人権教育旬間」でした。本校では、来年度から教科化される道徳の授業等を活用し、自分を大切にし、同じように相手を大切にできるような人権に対する感覚を育てていきたいと考えています。旬間の始まりにあたり、校長が次のような話をしました。



今年も前期の人権教育旬間が5月7日から5月17日まで予定されています。人権教育というのは、自分も自分の周囲の人も共に幸せに生きるための学習です。『自分を大切にし、同じように相手を大切にできるような人権感覚を育てる』というのが今年目標です。本校の学校教育目標は、『相手に生きることによって、自己を生かす』ですが、何となく似ていませんか。学校もそうですが、社会に出ると余計に、人は人とかわらなければ暮らしていけません。たとえ、IT技術が進化して便利になったとしても、一人で生きていくことはなかなかできないと思うのです。では、私たちはどのように自分や周囲の人と向き合い、接していけばよいのでしょうか。

みなさんは、大坂なおみ選手を知っていますか？大坂選手は、ハイチ出身の父と日本人の母をもつ若い女性です。テニスのグランドスラム大会である全米オープン、全豪オープンに連続優勝し、その後世界ランキングでも1位になった選手です。日本人がテニスのグランドスラム大会で優勝したのも、WTAで1位になったのも、初めてのことです。幼少期からテニスを始めて、鍛えられた体から繰り出す強力なサーブやストロークを武器に、ここ数年で世界でもトップクラスのテニスプレイヤーに急成長しました。加えて、全豪オープンでは、試合中の自分のくじけそうな心と向き合い、何度も逆転勝利を収めました。試合後のインタビューでも、チャーミングな受答えが印象に残る選手です。

このアスリートが帰国した直後の記者会見で、こんな質問が出てネット上やワイドショーなどで大いに話題になりました。それは、「日本人との間に生まれた人が日本人という古い価値観が残っているところ、大坂さんのバックグラウンドが伝えられる中、大坂選手の活躍でそれを見直そうという動きが出ています。自身の日本人としてのアイデンティティをどのように受け止めていますか？」というものです。質問の言い回しが分かりにくいかもしれませんが、記者は大坂選手を目の前にして「あなたは日本人ですか？古い考えでは日本人とは思えないのですが」と言っていると同じなのです。大坂選手が帰国したときに質問した記者に、大坂選手の肌の色に対する差別が潜んでいたようにも思えます。ところが、この心ないひどい質問に大坂選手は、何度も同じようなことを聞かれてきたのか、淡々と「私は私」と答えたのです。その記者はその後、そのことについてさらに質問することはできなかったということです。

話はかわりますが、この連休中、大阪などの大きなデパートでは、ランドセルの売り上げの最盛期だったそうです。普段一緒に暮らしていないので、連休で帰省してくるお孫さんにおじいちゃん、おばあちゃんが入学祝にランドセルを買ってあげるのだそうです。ランドセルの色も昔は、男の子は黒、女の子は赤と何となく決まっていた気がします。実際、小学生を見たときに、赤いランドセルを背負っていれば女の子かなと、黒いランドセルを背負っていれば男の子かなと決めつけてしまうこともありました。じゃあ、キャラメル色のランドセルは？最近では様々な色が、自分の好みで選べるようになってきました。大人になれば、女の人も黒いバッグをもっていることには何の違和感もありません。そう考えれば不思議なことですね。

さて、人はいろいろな考え、いろいろな性格、いろいろな特徴の違いがあるのは知っていますね。あなたはあなた自身の性格、特徴を知っていますか？

こんな人はいませんか？『いつも落ち着きがなくて、一つのことをなかなか続けられない。』

こう感じてしまうと、何か自分はダメな人間だなあとうつむき加減になってしまいますが、ちょっと見方を変えてみると、『いろいろなことに幅広く興味をもって、好奇心が旺盛である。』とも考えられるし、『新しい物事への行動力にあふれていて、同時にいくつものことに取り組める。』とも考えられ、短所だと感じていたものが一気に長所に早変わりします。

私たちに今必要なことは、自分や相手の『多様性』、つまり違いを認め、尊重することです。そのために正しい知識をもつことは大切でしょう。たとえば、大坂選手に対して行った記者の差別に見られた生まれにおいても、ジェンダーと呼ぶ様々な性の型においても、様々な障がいに対して、あるいは、高齢者に対して、友とのちょっとした考え方の違いがいじめの原因をつくり出してしまふことなども。

みなさんがやがて生きていく時代は、情報技術が進んで一見、人とのかかわりは薄れていくのではないかと錯覚しがちだったり、国際化が進み、生まれも文化も異なる人たちと共に生きていかななくてはならなかったりします。答えが見つからないような課題に直面することもあるでしょう。自分の考え方と違う人と接することだって中学校時代とは比べ物にならないほど多くあるでしょう。

多様性を認め合い、尊重することが、偏見や差別のない居心地のよい人間関係をつくっていくように思います。それがこれからの時代を生きるのに必要な共生ということだと信じています。

最後に、金子みすゞさんの詩を紹介します。聞いたことのある人も多いと思います。金子みすゞさんは、大正時代から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人で、自然とともに生き、小さな命を慈しむ思い、命なきものへの優しいまなざしをもった人です。

わたしと小鳥と鈴と

わたしが両手をひろげても、お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥はわたしのよう、地面(じべた)をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴はわたしのよう、たくさんうたは知らないよ。
鈴と、小鳥と、それからわたし、みんな違って、みんないい。

第55期(2019年度)生徒会スローガン

自律 ～生徒の生徒による生徒のための生徒会～

2019年度(第55期)生徒会の生徒総会が、5月13日(月)に行われました。スローガンの「自律」には「自分たちの生活や活動を考えること」、「もう一度『西中スタンダード』の意味や内容を考え、全校で創り上げていきたい」という思いが込められています。生徒会長が選挙公約に掲げていた「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」への参加とともに、「自律～生徒の生徒による生徒のための生徒会～」というスローガンが承認されました。全校一丸となって、西中生徒会の新たな歴史を築いていってください。



不審者対応防犯教室

5月17日(金)に、千曲警察署生活安全課の菊池さん、吉澤さんを講師に迎え、防犯教室を開講しました。不審者が教室内に侵入した場合や登下校時に不審者と遭遇した場合の安全確保の方法や自分の身を守る方法等について、実演を交えて教えていただきました。何か起こってしまったとき、教えていただいた通りにできるとは限りませんが、心構えをしておくことが大切です。ご家庭でも折に触れて話題にしていただけるとありがたいです。



いよいよ更埴体育大会です

6月8日(土)・9日(日)に、第55回更埴中学校体育大会が行われます。学校では万全の準備をして3年生の最後の大会を迎えられるように、6月3日(月)より部活動強化週間として、放課後の部活動の時間を確保します。また、生徒会でも体育応援委員会による応援練習や視聴覚委員会による昼の放送での各部の意気込み発表など、大会に向けて雰囲気盛り上げていきます。

大会前日の6月7日(金)に、更埴大会・北信野球壮行会を行います。保護者の方々も学校にお越しいただき、3年生選手の勇姿を是非ご覧ください。

(文責：教頭 宮澤)